## 防衛大学校本科第３１期学生及び理工学研究科第２４期学生卒業式における学校長式辞（昭和６２年３月２２日）

第4代学校長　土田　國保

防衛大学校本科第３１期及び理工学研究科第２４期の学生諸君は、本日をもって所定の教育訓練並びに研究の全課程を終了し、４年あるいは２年の小原台生活に別れを告げることになりました。ここに卒業式を挙行するに当たり、卒業生諸君に対し、まず心からお祝いを申し上げます。

本日のこの栄ある式典に、国務御多端の折にもかかわりませず御臨席を賜りました中曽根内閣総理大臣[注(1)]、栗原防衛庁長官[注(2)]をはじめ、国会議員の諸先生ほか、内外多数の来賓各位に対し、心から厚くお礼を申し上げます。また卒業に至るまでの間、歴代の防衛関係機関の幹部各位、官民の諸機関、更には有志の皆様方並びに在日米軍、各国大使館付武官等の方々からいただきました御指導、御協力に対しましても、併せて厚くお礼を申し上げる次第であります。また本校において、学術教育の任に当たられました教授、助教授、講師、助手の各教官、日夜をわかたずひたむきに訓練、補導に全力を傾注され、あるいはまた縁の下の力持ちとなって、各般の校務に精励せられた訓練指導教官及び職員各位に対しましても、学校長として深甚なる感謝と敬意を表するものであります。更にはまた、遠路をも省みず御参列賜りました御父兄の皆様方に対しましても、今日までの御援助に深く感謝申し上げますとともに、御子弟の成業を心からお祝いをするものであります。

４３０名の本科卒業生諸君、 省みれば昭和５８年４月１日、冬の再来を思わせる冷え込みの中で、中講堂に諸君を迎えた時のことは、今も思い出を新たにするところであります。あれからの４年間、諸君は学業

---

注(1)　中曽根康弘

注(2)　栗原祐幸

に励み、訓練その他数多くの試練に耐え、１学年当時に比して、見違えるような逞しい成長を遂げられました。今や胸を張って堂々と卒業してゆく資格は、諸君のものであります。シンガポール共和国１名、タイ王国の４名の留学生諸君にも、心からなる祝福を送るものであります。

さて諸君の自衛隊幹部としての修行は、いよいよこれからが本番であります。入校以来、私は諸君に対して、防大生は「真の紳士にして真の武人たれ」と説き続けてまいりましたが、このことは、これから陸・海・空の幹部として育ってゆくべき諸君の生涯をかけて、胸の奥にたたみ込んでおいていただきたいと思うのであります。

自衛隊の幹部は、社会人としても一流の紳士たるべきことは当然でありますし、その境涯において、武人としての不断の研鑽が要求されるのは、洋の東西を問わないところであります。更に諸君は日本人である以上、特に日本の優れた伝統文化である武士道精神の後継者として、国際化の進む将来、自らの主体性を失わず、足をしっかりと踏みしめての縦横な活躍を、心から念願するものであります。ただしここで注意を要することは、武士道精神を観念的、抽象的に振り回すことの危険性であります。単に愧(はじ)を知れ、名を惜しめと言っても、卑怯者と言われたくないために、反対すべきことでも同調してしまうとか、あるいは日本人の美意識として、滅びの美学に酔うこととともなれば、その赴くところ、遂には任務放棄、人命軽視にさえつながりかねないのであります。要するに、武士道精神に包摂される諸々の徳目、精神要素を、抽象的スローガンとして捉えるのでなく、その中味について、合理性と合目的性に照らして判断し、検証しなければなりません。そしてその際、日本人の短所である甘い運命観、感情の激変、個性の欠如と集団への埋没、甘い対外認識等々を常に自覚し、今後の諸君の体験を通じて自己啓発に努めてゆくことこそ最も肝要であります。

それにしても、新渡戸稲造氏の著書『武士道』等に説かれているごとく、我が国の武士道精神の核心は、むしろ集団に埋没することなき孤高の精神、リーダーとしての献身とプライド、自己への厳しさと人間愛の精神を主軸とするものであって、所謂、日本的集団主義の陥りがちな欠点を是正しうる力であります。それこそ素晴らしい民族の伝統と申して過言ではないのであります。この武士道精神は、概ね日露の役を境として、我が国の近代化そして大国化の過程で、まずその指導層の中から遺憾ながら形骸化していったのであります。敗戦後、世上憂えられて来た日本人の道義の頽廃は、実は敗戦の所産(しょさん)であるというよりは、あの大敗

北を招いた戦前の産物なのであります。そして今日、激しい国際化の波に洗われる我が国において、日本民族の原点を忘れない日本人が大切なのであります。どうか諸君は、名誉ある我が防大卒業生として、立派な紳士、優れた武人、すなわち優れた日本人たるべく、努め励んでゆかれんことを心から祈るものであります。

次に理工学研究科６１名の卒業生諸君に対し、一言申し述べます。諸君は、幹部自衛官として必要な資質の涵養、なかんずく各分野における大学院レベルの専門的知識技能を修得するべく、２年の歳月を本校において過ごされ、貴重な研究体験を、各教官のもとでとともに積まれたのであります。今日そして将来、自衛隊幹部に求められるニーズは、一つには全人的教養、二つには国際人としての力量、そして三つには高度の科学技術力なのであります。諸君がこの小原台において、将来の飛躍と大成のポテンシャルを改めて培う機会を得たことは、真に有意義であり、２年間の第一線勤務又は技術的実務の空白を補ってあまりあるものと信ずるものであります。今後諸君は、それぞれ新たな任務に挺身せられるのでありますが、更に研鑽に努められ、ますます重要となりつつある自衛隊の科学技術の発展向上に尽くされるよう切望してやみません。

小原台生活の幕は、今まさに閉じようとしております。これから先、同期生同士、その融和と団結を更に強め、いかなる部署、そしていかなる境涯にあっても、防大出身者としての誇りをもって、お互いに手を取り合い、助け合い、祖国日本の輝かしい将来のために、末永く挺身してゆかれんことを、心から祈念しつつ、ここに式辞を終わるものであります。